

開講日	2014年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A・B
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 教授 森田 明理		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】免疫・アレルギー性疾患は、ほとんどの臓器・診療科に関与するもので、病態や治療を理解するためには、基盤となる基礎的な免疫学の知識が不可欠である。しかし、登場する液性因子(サイトカインやケモカイン)や細胞の種類も多く、疾患ごとに学ぼうとしてもなかなかアップデートしにくい領域である。しかも、近年、治療が飛躍的に発展した領域でもある。この講義シリーズでは、免疫学の基礎的なレベルから、各疾患の病態、そして生物学的製剤(抗体療法)を含めた最新の医療まで、多数の診療領域からわかりやすく講義を行う予定である。 【期待される成果】免疫・アレルギー疾患の病態や治療を理解するための基礎知識を身につけ、さらに、多領域にわたる疾患について系統的に講義をうけることで、近年急速に発展した治療方法を理解することができる。		
目標とする 資格			

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1 講義室A	1	免疫・アレルギーの基礎と免疫制御の先端研究	免疫は感染、自己免疫疾患、アレルギー、移植、癌、炎症などの広い病態に関係する。免疫を制御して、これらの疾患を治そうという取り組みが始まっている。免疫の基礎的知識と、免疫制御の先端研究について解説する。	4月17日	准教授 山崎 小百合 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学
L-2 講義室B	2	アレルギー性鼻炎の病態と最新の治療	国民の多くがアレルギー性鼻炎に悩まされていますが、その有病率はさらに増加傾向にあります。本講演では重要な疾患であるアレルギー性鼻炎の病態と治療について解説します。	4月24日	准教授 鈴木 元彦 名古屋市立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科
L-3 講義室B	3	好酸球性中耳炎の病態と治療	好酸球性中耳炎とは従来型の急性中耳炎や慢性中耳炎とは異なる病態の難治性疾患です。高率に気管支喘息と合併を認め、One airway, One Diseaseの一つとして捉えられます。今回あまり世間一般には知られていないこの病気の実態と治療法について解説します。	5月8日	医師 尾崎 慎哉 名古屋第二赤十字病院 耳鼻咽喉科
L-4 講義室A	4	好酸球性副鼻腔炎の病態と治療	慢性副鼻腔炎は、マクロライド少量長期投与や鼻内副鼻腔手術の発達により比較的治りやすい疾患となっている。一方で、喘息に合併する副鼻腔炎(好酸球性副鼻腔炎)は極めて難治性であることがわかってきた。本講演では、好酸球性副鼻腔炎の特徴について解説します。	5月15日	病院講師 中村 善久 名古屋市立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科
L-5 講義室B	5	リウマチ性疾患の病態と治療 Up to Date 1 (関節リウマチなど関節炎疾患を中心に)	関節リウマチは関節を主座として全身の持続性炎症を来し、身体障害を来しうる疾患です。炎症の元となる炎症性サイトカインを選択的かつ強力に制御できる生物学的製剤の登場は、関節リウマチ診療にパラダイムシフトをもたらしました。本講義では、現在行われている関節リウマチ診療について概説します。	5月22日	病院准教授 難波 大夫 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学
L-6 講義室B	6	成人気管支喘息の疫学、病態、診断	喘息は、気道の慢性炎症と過敏性亢進に基づく可逆性の気流閉塞が特徴です。患者増に関わらず治療の進歩により発作入院や死亡は顕著に減少しましたが、今も難治例は存在します。喘息とはどういう病気かを解説します。	5月29日	教授 新実 彰男 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学
L-7 講義室B	7	成人気管支喘息の治療	喘息治療のゴールは、発作を気にせず健康な人と同じ生活を送ることである。本講演では、ガイドラインに基づいた喘息の予防・管理について、喘息患者への生活指導から最新の薬物治療まで幅広く解説する。	6月5日	助教 竹村 昌也 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学
L-8 講義室B	8	びまん性肺疾患:薬剤性肺炎を中心に	びまん性肺疾患は両肺の広い範囲に陰影が拡がる病態の総称で、その原因は喫煙から自己免疫疾患、原因不明まで多彩である。薬剤性肺炎は抗癌剤や生物学的製剤のみならず多くの薬剤が原因となり、その対策法を学ぶ。	6月12日	助教 大久保 仁嗣 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学
L-9 講義室A	9	食物アレルギーの最近の話題	食物アレルギーはなぜ起こるのか、どう治療をするのか?加水分解コムギ含有石鹼による小麦アレルギー発症、経口免疫療法、エビペン自己注射などの最近の話題をもとに、免疫機序から最新の治療法まで、食物アレルギーを学びます。	6月19日	助教 野村 孝泰 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学
L-10 講義室B	10	リウマチ性疾患の病態と治療 Up to Date 2 (全身性エリテマトーデスなど全身性結合組織病を中心に)	膠原病(全身性エリテマトーデスや強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎など)は、免疫異常が病態形成に重要で役割をはたす全身性炎症性疾患です。自己免疫寛容が破綻する病態メカニズムから、膠原病の臨床像、最新の免疫抑制治療法まで、幅広く解説します。	6月26日	助教 前田 伸治 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学
L-11 講義室B	11	炎症性腸疾患の最新治療	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の原因はまだ不明ですが、研究が進み新しい治療法が開発されています。最近登場してきた治療薬、治療法について解説します。	7月3日	講師 谷田 諭史 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
L-12 講義室A	12	アトピー性皮膚炎と蕁麻疹の病態と治療	アトピー性皮膚炎や蕁麻疹は代表的なアレルギー性皮膚疾患です。しかし、アトピー性皮膚炎ではバリア機能異常などの非アレルギー的な側面も併せて持っています。その病態や診断、治療方法について解説します。	7月10日	部長 澤田 啓生 名古屋市立西部医療センター 皮膚科
L-13 講義室A	13	薬疹の診断と治療	薬疹のうち一般的な遅延型アレルギー機序によって起こるものと、アナフィラキシーに代表される即時型アレルギー機序によるものをとりあげ、病態、治療法、原因薬検索のための検査などについて解説します。	7月17日	医長 西尾 栄一 豊川市民病院 皮膚科
L-14 講義室B	14	よくある皮膚病・プライマリケア	皮膚は、肉眼で観察できる臓器です。外見から診断に近づくことができることが多いという特徴があります。比較的好く遭遇する皮膚疾患を、似た皮疹を鑑別しながら解説します。	7月24日	部長 榊原 代幸 名古屋第二赤十字病院 皮膚科
L-15 講義室B	15	乾癬・乾癬性関節炎:大きく変わってきている最新の治療方法	乾癬、乾癬性関節炎の発症や皮膚の症状から診断のながれ、そして、最近使用できるようになった生物学的製剤の治療方法と治療効果を解説します。	7月31日	講師 新谷 洋一 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学